

【平成29年度業務実績評価等に関する意見一覧（全般的意見）】

評価報告書の全体評価：下線、項目別評価：波線

■全般的事項に関して

（篠塚委員長）

全体的な実施状況は概ね計画どおりに進んでいると言えますが、①教育に関する事項の項目26および29の2点がC評価と遅れており、これらの早急な実施を望みます。さらに、認証評価において改善を要すると指摘された事項についても、早急な対応が望まれます。

（梶委員）

②中期計画は達成に向けて着実に進んでいる。

（後藤委員）

③全体の97%にあたる95項目が計画通りに実施されており、②順調に業務が遂行されている点は評価できる。

（布川委員）

④見直しや修正した箇所について、補足があるとよかったです。

■業務の全体的な実施状況、特筆すべき成果に関して

（篠塚委員長）

教員人事評価の処遇への反映は、当初計画からは遅れたものの、ようやく本格実施の目処がついたことは評価できます。評価の処遇への反映という点では今後さらに優秀教員に対するポジティブな処遇の方策（勤勉手当の増額等の、該当する期の実績に対する処遇という考えで良いと思います）についても、是非検討をお願いいたします。→No.55

（梶委員）

ほとんどの年度計画が実施されていて大いに評価できる。

報告書にある特筆すべき成果の他にも、⑤こども科学教室のブース数・参加者のアップは成果として評価しても良いと思う。

（後藤委員）

大学改革支援・学位授与機構の「地域貢献活動の状況」評価でも優れた点として取り上げられている通り、⑥地域の産業界との連携や共同研究が進められ、さらに共同研究を通じて、教育研究と就職が有機的な関係を構築できていることは評価できる。→No.8

<p>(布川委員)</p> <p>対内はもちろんですが、対外に対してもわかりやすく様々な媒体を利用して⑦情報を発信されておりとても良いと思いました。</p>
<p>■ 今後に対する意見</p> <p>(篠塚委員長)</p> <p>今後の次期中期計画の策定などに関し、様々な施策や行動計画の立案、実行に対して、⑧学長をはじめとする大学トップのリーダーシップのさらなる発揮を期待いたします。</p> <p>(梶委員)</p> <p>年度目標は出来るだけ定量化したほうが良いと思う。→No.33、69</p> <p>(後藤委員)</p> <p>本年度の個別項目の評価が B であっても、⑨中期目標の達成に向けて努力していただきたい。</p>
<p>■ 大学の教育研究等の質の向上に関して</p> <p>(篠塚委員長)</p> <p>⑦研究業績の外部への積極的な情報発信は、教育研究の質の向上に繋がりうる活動であると評価できます。一方で、⑩履修モデルの策定やカリキュラムの見直し作業などは遅れが目立つと感じます。今後こうした点について早急に検討を進めていただきたいと思います。</p> <p>(梶委員)</p> <p>企業人事経験を有する就職相談員の配置→No.17 やインターンシップの促進→No.9、ミスマッチアンケート→No.18 などキャリア支援が行き届いている。</p>
<p>■ 業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善に関して</p> <p>(篠塚委員長)</p> <p>電気料金入札制度の導入により、⑪料金の削減が実現できたことは評価できます。また、⑫グループウェアの積極的な活用は、必要部署内での情報の共有・作業の効率化の面で評価できます。</p> <p>(梶委員)</p> <p>教職員の目標管理、⑫グループウェアの活用、ハラスメント防止の環境づくり等、改善が進んでいると大いに評価できる。</p>

■ 自己点検・評価及び情報公開、その他業務運営に関して

(篠塚委員長)

情報公開については、昨年度に引き続き⑬web を活用した様々な情報公開が進展している事は評価できます。今後はこうした web 情報のスマホ対応についても、費用等の面で制約はあるでしょうが、ご検討をお願いいたします。

一方、⑭自己点検・評価の活動に関しては、認証評価でも指摘され、本委員会でも実績評価の個別の記載のいくつかで意見が出されているように、様々な活動のとりまとめ機能が未だに十分であるとは言えないと思います。大学の様々な活動が組織的に行われ、PDCA サイクルが有効に機能していることを担保するためにも、今後こうしたとりまとめ機能の組織的な整備に努めていただきたいと思います。

(梶委員)

⑬HP を利用しての情報公開が進んでいると評価できる。

(布川委員)

丁寧に評価されており、特に問題ないかと思いました。

■ その他

(篠塚委員長)

④業務実績に対する外部評価では、これまでも申し上げてきたように、示された事項評価を裏付ける根拠資料や、数字のデータなどの充実をお願いしたいともいます。この点、昨年度に比べて改善されたと感じますが、いまだに不十分な点が見受けられます。

また、昨年度も指摘いたしましたが、実績欄の記載で「検討」や「議論」、「見直し」を行ったなどの記述の場合には、そうした活動が組織的に実行されていることを示すために、それらを行った責任組織の名称、或いはそれらの活動の責任者（学長、副学長、各種委員会の委員長など）についても記述をお願いします。

(梶委員)

⑮理系大学として女子学生が多いのは環境整備に対する取り組みの成果だと思